

例年であれば、8月の終わりに和歌山県、紀の川市を訪れたものでした。市内の中学生にがん教育を行うため、2012年度から毎年、続けてきました。コロナのため、2年続けて実施できなくなり、大変残念に思っています。

紀の川市は、和歌山県の北部に位置し、関西国際空港から車で40分程の風光明媚（めいび）な土地です。

紀の川の清流と豊かな自然の中で、野菜や果物の栽培が盛んです。なかでも、桃、柿、キウイ、ハッサク、ミカン、イチゴ、イチジクといったフルーツはつとに有名です。中村慎司市長の自宅で実った果物を頂くこともあります。格別のおいしさです。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

東日本大震災の直前に紀の川市でがんの市民講演会を行ったあと、青洲の診療所「春林軒」を訪れました。青洲はここで煎じ薬「通仙散」を使った世界初となる全身麻酔下の外科手術を成功させました。次回以降、紹介しますが、青洲は乳がん治療のパイオニアでもあります。

青洲の先駆的な治療に魅了

紀の川市の先駆的ながん教育

なお、果物は胃がんや食道がんのリスクを「ほぼ確実に」

低下させることが分かっています。食道がんはお酒が好き。な私にとっても気になるがんの一つです。1日に1回は果

物を取るように心がけています。

さて、江戸っ子の私が紀の川市とご縁を頂いたきっかけは、江戸時代の医学者「華岡青洲」です。

された私は、市の「健康推進

アドバイザー」に就任し、中村市長に学校でのがんの授業を提案しました。そして、市内の全中学校の生徒へのがん教育が始まったのです。

今、中学校と高校の保健体育の学習指導要領にがん教育が明記され、この4月から全国の中学校で授業が始まっています。これにともなう、中学校の保健体育の教科書が改訂され、「がんができる仕組み」、「生活習慣と発がんのリスク」、「がんの予防法」、「早期発見の重要性」などを生徒は学びます。

高校でも、来年度からがん教育が始まり、放射線治療を含めたがんの治療法や緩和ケアなどについて深く学習することになります。

紀の川市での取り組みが、わが国のがん教育の先駆けとなったのは間違いのないと思います。

(東京大学特任教授)